

カトリック二俣川教会
教会だより



二十六聖人

2022年 12月号

No. 353 (2022年12月4日 発行)

カトリック二俣川教会 TEL 045-391-6296

<http://www.futamatagawa-cc.com/>

主任司祭：ヤコブ 姜 真 求 (カン ジング)

巻頭言：飼い葉おけの前で眠らないように

いよいよ待降節となり、わたしたちはイエス様の降誕祭を待つ時を過ごしています。イエス様の誕生によって、罪と死の影にあるすべてのものは神様の慈しみと愛による救いに与えるようになりました。しかし、その恵みは神様の救いの計画を素直に受け止める人だけに授けられるものであり、そうではない人には隠されていて、決して見えないものだったのです。それをよく現す聖歌があります。それは「ああ ベツレヘムよ」という聖歌で、今月の巻頭言ではその聖歌の第一節の歌詞を味わいたいと思います。

**「ああ ベツレヘムよ などかひとり 星の
み匂いて ふかく眠る 知らずや今宵 くら
き空に とこよのひかりの 照りわたるを」**

不思議なことに司祭となつてからは、降誕節の聖歌の中でもこの聖歌が特に好きです。多分、降誕祭のにぎやかな雰囲気と対照的な歌詞のためだと思います。でも、少し考えてみると、果たして世界の初めのクリスマスを

迎えたベツレヘムが、本当に静かだったでしょうか。

新約聖書によると、イエス様がお生まれになる前、ローマ帝国の皇帝アウグストゥスは全領土の住民に、登録をせよとの勅令を出しました。そこで、すべての人が自分の町へ旅立ち、イエス様を身ごもっていたマリアも、ダビデ王の子孫であるヨセフと一緒にダビデ王の町ベツレヘムに行ったわけです。ところが、彼らがベツレヘムに滞在していたちょうどその時、イエス様はお生まれになりました。そして、わたしたちが知っている通り、宿屋を取れなかったので、生まれたばかりのイエス様は馬小屋の飼い葉おけに寝かせられたのです。

ダビデ王の村ベツレヘムはイスラエルの中でも最も小さな町でしたが、かつてメシアが生まれる村として予言されていました。それは、ただ、外見的な大きさの事だけではありません。というのは、神様への強い信仰を持

っていたダビデ王のようではなく、むしろ、神様から遠ざかってしまったイスラエルの憐れな姿を現しているということです。言い換えれば、神様から離れたイスラエルは、自らみすばらしい身の上となる愚かな道を選んでしまったということでしょう。その結果、イスラエルの治め主は神様ではなく、世の中の帝国となってしまったのです。

ところが、皇帝の人口登録の命令によって、小さな村でも多くの人たちが訪れてきて、イスラエルの各地はにぎわい、おそらく、ベツレヘムも同様だったに違いありません。地元の人たちにとって、この命令はどうしても逃したくないお金が稼げる絶好のチャンスとなったのは言うまでもありません。村の至る所で、宿屋を取ろうとする人たちや、彼らを迎えようとする人たち、色々な食べ物や品物を売ったり買ったりしている人たち、先にお客さんを取ろうとして、互いに声高らかに争い合う人たち。小さな町ベツレヘムは皇帝の命令がもたらしたにぎやかな雰囲気です。

しかし、そんな人たちの目に、ヨセフと身ごもっていたマリアが見えるはずがあるでしょうか。そのヨセフとマリア、そして、生まれたばかりのイエス様に許されたのは家畜のにおいと鳴き声をする馬小屋と飼い葉おけだけでした。でも、その静かでみすばらしいところこそ、神様の救いを待ちに待っていた人たちにとって、世の中のどんな華々しい宮殿よりもはるかに輝いている聖なるところだったでしょう。その貧しい所に、荒れ野で羊の群れと一緒にいた羊飼いたちが、また、東方から身分の高い博士たちが導かれてきて、イエス様を拝みました。こうしてイエス様

は、ただ神様だけに希望を置いていた人たちの瞳にその姿を見せてくださったのです。でも、ベツレヘムは世の中のことにおいては目覚めていましたが、神様の救いの計画においては深い眠りについていました。これが世界の初めのクリスマスの様子でした。

そのクリスマスが再び訪れてきています。

でも、もうクリスマスは人類最大のお祭りとして扱われ、そのまことの意味が分かるか否かにかかわらず、とても賑やかに祝われています。二千年前の世界の初めのクリスマスが、そういった雰囲気の中で訪れてきたと同じく、今の時代もそのようにイエス様の誕生を待っているのではという気がします。みんなが盛り上がるクリスマスはもうすぐですが、あらゆるところで悲しみや苦しみの涙をしている多くの「ヨセフとマリア、そして、イエス様」のための馬小屋は、どこにあるでしょうか。その貧しい家族のためのわたしたち各々の馬小屋は、どのように準備されているのでしょうか。その飼い葉おけの前で、世の中のことや自分の事だけに目がくらんだベツレヘムのようにではなく、きちんと目覚めているのでしょうか。

主任司祭 ヤコブ 姜 真求



－ 11 月教会委員会報告 －

【神父様のお話】

韓国のイデウォンでの事故を想うと、私達が若い人をどのように支え、導き、居場所となるような交わりを持っているのかという問題も含んでいると思います。

国という大きな枠組みのみならず、小教区の問題として捉え、私達は若い人たちにもっと関心を持ち、自律できる様に、人格的に接し共に歩むよう協力をお願いします。

【今月の検討項目】

1. 感染症対応に関する変更に関して

- 1) 11 月 26 日（土）17 時ミサより氏名確認は行わない。当日より、ミサ以外訪問記録もなくす。＊但し、駐車場ルール・検温・手指消毒・ミサ後の消毒は継続。
- 2) ミサ対策は、現行 4 名を 3 名に減じ、ミサ毎に 1 チームを編成する。
- 3) 聖堂内収容人員を増やし、ミサ地区割を変更する。（土曜日は地区指定なし）

2. 信徒集会開催に関して

信徒集会は、2022 年開催内容に准じて、2023 年 2 月開催予定。

3. ステンドグラス設置検討

第 1 回打ち合わせ実施 10 月 29 日（土）。
議題：プロジェクトチーム（以下 PJT）の経緯と認識の統一。
第 2 回打ち合わせ予定 12 月 17 日（日）。
議題：PJT の方向性検討。

4. 日本二十六聖人を知る企画

第 1 回打ち合わせ実施 10 月 30 日（日）。
議題：PJT の経緯説明と概略企画検討。
第 2 回打ち合わせ予定 11 月 27 日（日）。
議題：PJT の基本的知識向上と活動方針に関して。

5. 年末福祉献金に関して

（福祉委員会より発議）

年末福祉献金は、2021 年に准じて行う方向

で進めます。福祉献金の目的に合致しているかを再精査し、信徒の皆様へ献金先の活動内容の周知を図るようにする。

6. アイメイト（盲導犬）カレンダーの紹介に関して

アイメイト（盲導犬）カレンダーを今週のお知らせ・ポスターで紹介し、購入の協力を呼びかけ。

7. 事務所

- ・集会室利用申込は、事務所の所定用紙に予約をする、に改める。
- ・教会保管の過去写真を図書スペースに設置し自由閲覧にする。
- ・ウクライナ支援献金は継続。

8. 各会報告

1) 典礼委員会

- ・11 月 12 日、13 日年間第 33 主日は集会祭儀。
- ・待降節第一主日より A 年。「新式次第によるミサ」もこの主日ミサから。
- ・新しいキリアーレの楽譜が準備完了。当面は歌わずに唱えることとする。

2) 教会学校

- ・11 月 20 日（日）11 時ミサで七五三お祝い。7 名の申し込みあり。

3) キリスト教講座

- ・10 月 29 日（土）委員会開催。
- ・11 月 27 日（日）11：00 ミサにて 5 名の入門式。
- ・12 月 10 日（土）に牧山神父様指導による待降節黙想会。

4) 建物管理

- ・非常灯 3 か所を交換致します。概算費用は ¥25,000×3=75,000 円。
- ・馬小屋準備は 11 月 20 日を予定。

5) 共同墓地

- ・ 11 月 3 日（木：祝）10：30～上大岡墓地にて追悼ミサ実施。13 名の参加。
- ・ 追悼ミサ動画は、11 月 7 日（月）より youtube にて 2 週間配信。
支出：墓地管理費 15,300 円。お花代 3,000 円。

6) ヨゼフ会

- ・ 11 月 20 日（日）コーヒー光、例会、馬小屋設置を予定。

7) マリア会

- ・ ボリビア支援グループ：11 月 20 日（日）11 時ミサ後にジャム販売・献品小物販売を予定。
- ・ ステラマリス帽子を編む会：11 月 24 日（木）クリスマスプレゼント用のラッピング予定。170 枚以上の帽子が編み上がり、一緒に入れる、石鹸・タオル・手のひらに乗る大きさの日本的な小物の献品をお願いしたい。

- ・ 9 月 27 日（火）司教顧問会にて「横浜教区ステラマリス」と正式名称が決定されました。

8) 青年会

- ・ 10 月 6 日（日）青年会定例会開催。
- ・ クリスマス：子供達と青年会有志でキャンドルプレゼントを計画。11/6、11/12、11/20 にて試作と製作。
- ・ 新成人のお祝いは、キャンドルをプレゼント予定。

9) インターファミリー

- ・ 10 月 23 日（日）ミーティング実施。
- ・ 来年度活動計画 テーマ：～知る・学ぶ～
◎アルペなんみんセンター（難民について）
◎日本二十六聖人について
・ 次月のミーティングは 12 月中旬を予定。

10) 一粒会

- ・ 11 月 23 日（水/祝）「ザビエル祭」。参加は 5 名を予定。

以上

～シノドスへの準備のための 10 の質問より～ 第 8 回（最終回）

⑩「シノダリティの中で自己形成すること」

教会の中で責任ある役割を担っている人々が、互いに耳を傾け合い対話しながら、「ともに旅をする」教会がさらに成長し、共同で識別と決断できるようになるため、わたしたちはどのような養成ができるでしょうか。

（姜神父様のコメント）

以下、質問の原文です。

「シナディティは、変化、養成、継続学習に対する受容力を必要とします。わたしたちの教会共同体は、「ともに歩み」、互いに耳を傾け合い、宣教に参加し、対話に加わる能力がより高まるように、どのように人々を養成できるでしょうか。シノドス的な仕方で、識別と権威行使を育成するために、どのような養成が提供されているでしょうか。」

教皇様がシノドスの期限を一年延長されました。というのは、今回のシノドスの内容が大変重要であることを示しています。今回は各地域教会、しかも教区単位、そして小教区単位からいろんな意見や実際の状況に関する報告を集めて、それで来年のシノドスでこれからの教会のありさまを示すことになりますが、少し残念に感じていることは、現状を報告することだけで自己診断ができないこと。つまり、自分たちの小教区や教区の今の状況をちゃんと把握したのに、把握した上でじゃあどうするか、ということに関して反省と前向きな方向性が議論されていないことが本当に残念なことです。それと共に、ここにも書いてありますが「変化、養成、継続学習」とこれからもともに歩み、互いに耳を傾け合い、宣教に参加し、対話に加わる能力がより高まるように、どのように人々を養成できるでしょうか、という質問があります。これはつまり、単なる一度だけのイベントではなく、ずっとこれから、シノドス的な教会を目指してみんなが少しずつ変わらなければならないですよということを示す質問だと思います。

この1年間シノドスの10個の質問に関する説明を行なってきた、毎回毎回話すことの1つですが、とりあえず変わらなければならないので、今までの私たちの姿がどのようなだったのか、どういう風に会議や委員会や団体を運営してきたか、どういう風に決定したり意見を集めてきたのか。やり方が正しかったのか。このようなことを考えて顧みて、もっと「共に」できるようにしなければなりません。

しかし、実際の団体や委員会でそういうふうに進める様子はなかなか見られません。自ら変わろうとする動きが欲しいと思います。そのようにすることから、次の人、次の人への養成ができると思います。そういう養成や育成ができなくなったら、もはや教会は今回のシノドスをもって、刷新どころか昔の形に回帰する恐れがあります。それで信者の皆さん、特に教会委員会のメンバーの皆さんも、折角のシノドスの質問ですから、これからは各委員会や団体で一つ一つの質問を会議の前や会議の中で、みんなで考えて分かち合って貰えたら嬉しいです。そうしてくださったら、二俣川教会の団体委員会や教会委員会も、もっと新たになることができると思います。



11月・12月の二俣川教会

- 七五三のお祝いが、11月20日（日）11時ミサの中で行われました。7歳、5歳、3歳の可愛い子供たちが、いちばん前寄りの何列かに、お父様やお母様と並んで座り、ごミサの最後に行われるお祝いを待ちました。神父様の祝福をいただき、お祝いの品をもらって、出席した子供たち全員が神父様と並んで祭壇の前で記念写真に納まりました。3歳の子が多く、また、下のお子さん（赤ちゃん）も一緒だったせいでしょうか、元気でにぎやかなお祝いになりました。

- 11月26日（土）の待降節第一主日のミサから新しいミサ式次第の使用が始まりました。
- 毎年恒例の教会の馬小屋が、ヨゼフ会の協力のもとで設置されました。巻頭言ページの写真は最新のものです。待降節が始まったことが感じられます。
- 待降節に入り、祭壇の前に大きくて美しい4色の口ウソクが置かれました。姜神父様が韓国から持ち帰ってくださった待降節の口ウソクです。感謝いたします。
- 12月10日（土）に黙想会が開かれます。テーマ：待降節の過ごし方とクリスマスの意義
指導司祭は二俣川教会出身の牧山善彦神父様です。講話は13時半から15時まで。講話終了後、休憩を挟んで、ゆるしの秘跡が16時まで行われます。その後、17時からの主日のミサも牧山神父様が司式される予定です。

ザビエル祭開催



11月23日（勤労感謝の日）に3年ぶりにザビエル祭が開催され、二俣川教会の4名の方と共に東京カトリック神学院に行って参りました。コロナウイルスの感染対策のため様々な制約の中、神学生は、子供達のゲームコーナーや神学生トークバー、展示コーナーや院内ツアー等々、来院者との交流の為に心を込めた準備をして私達を迎えてくださいました。

院内ツアーでは、雨のため中庭を巡ることは出来ませんでしたが、立入禁止となっていた居室や図書館に入らせていただく事が出来ました。また、楽しそうに神学生と遊んでいる子供の姿には、今度は是非二俣川の子供達と一緒に来たいなと思いました。ミサ後の閉会式では神学生と神父様から歌のプレゼントもあり、とても素敵なひとときを過ごすことが出来ました。

現在、神学院には通学聴講生も含めて26名が在籍しているそうです。神様の招きに応じて主の道を歩む彼らの上に神様の守りと導きそして祝福が豊かにありますように。

マリア M. Y.



『日本二十六聖人 を 知ろう！』

～ 学び、共に歩む ～

Vol. 3 : 日本二十六聖人に関連する書物の紹介（1）

2回に亘って日本二十六聖人や日本の殉教者について知ることのできる本を何冊かご紹介します。信仰の先輩たちへの学びや基本的知識の向上に役立つことでしょう。この機会に是非読んでみてください。尚、下記4冊の本の紹介文は広報委員が読み、帯文風に書いたものになっています。

① 「キリシタン薈 ～殉教した子供たち～」 著者：結城了悟 発行：日本二十六聖人記念館

今から425年前(1597年)の日本二十六聖人の殉教にはじまり、明治時代の津和野の浦上キリシタン流罪まで、270年余りの迫害において信仰を証した子どもたちの姿を紹介した一冊。司祭であり、歴史研究者である著者の言葉は、御言葉と史実が融合し、その歴史の上に生きる私たちの心の奥深くまで染み込み、心を揺り動かしてくれることでしょう。



② 「二十六聖人と長崎物語」（2002年第1版発行） 著者：結城了悟 発行：聖母の騎士社

1997年2月5日は日本二十六聖人の殉教400周年の節目でした。著者はこの日を目指して、日本二十六聖人は私たち信徒にとってどんな意義を持つのか、彼らの深い声が現代の人々にどんなメッセージを伝えるのかという問いを発しています。また、二十六人の一人一人がどんな人物であったのかを細かく記していることも特徴的なことです。長崎西坂までの約800キロという長い距離を何故、秀吉は歩かせたのだろうかという疑問についても、著者は自分の思いを込めて言及しています。



③ 「乙女峠 津和野の殉教者物語」 著者：永井隆 発行：サンパウロ社

1952年発行されたものが手にとりやすい文庫本になりました。著者は長崎で被爆した放射線医師永井隆博士です。「乙女峠」その名は知っていても内容は知らなかったりしませんか？この本は、たとえば浦上四番崩れの実体験者である守山甚三郎さんについても「わたしも何回か見かけたことがありましたが」といった具合に著者にしか書けない身近で深い書き方で歴史的な迫害を伝えてくださいます。甚三郎さんの手記からは、本当の信仰の強さについて教えられます。



④ 「日本二十六聖人記念館 所蔵品カタログ」 発行：日本二十六聖人記念館

長崎西坂にある日本二十六聖人記念館が所蔵する膨大な資料の中から世界的に貴重な展示品約200点がオールカラーで掲載されています。これまで改訂が繰り返されてきましたが全面的な編集が施され新装版として2017年に発行されさらに充実したカタログになりました。

ザビエル渡来から明治時代までの長崎はもとより世界中から集められた品々を通じて、キリシタン時代の歴史、文化、美術を知ることができます。かつてのキリスト信者たちの生きざまや殉教者たちの信仰をしのぶのに役立つことでしょう。



マリア会通信 No. 122

☆ステラマリス帽子を編む会

今年も手編みの帽子が 193 枚出来上がりました。コロナ禍での生活の中で、自宅で編んで届けてくださった方が大半です。11 月 24 日(木)に、編みあがった帽子とタオル・石鹸・日本的な小物をセットし、プレゼントラッピングして、横浜教区ステラマリスの本部（末吉町教会内）にお届けすることができました。港に寄港する船員さんに、皆さま方の温かい気持ちが届くと思います。帽子を編む毛糸を献品してくださった方、帽子を編んでくださった方、献品をしてくださった方、皆さまに感謝いたします。ありがとうございました。



帽子を編む会では来年の為に帽子を編み続けます。活動は第 3 金曜日（12/16）と第 4 木曜日（12/22）のミサ後から 13 時です。今後ともご協力よろしくお願いいたします。

☆ボリビア支援グループ

11 月 20 日（日）11 時ミサ後、2 年ぶりの対面販売が実現しました。当日は雨が予想され、寒くどんよりとした曇天でした。ヨゼフ会のコーヒー販売のコーヒーの香りが漂う中、4 種類のジャムと手作り品を販売し、ポツポツと雨が降り出す頃にはジャムは完売、手作り品も 8 個のうち 6 個を販売できました。以前より寂しい賑わいでしたが、笑顔の交歓は、以前と変わりありませんでした。



来月の対面販売は、12 月 18 日(日)に予定されています。是非おいでください。



☆アンナ会

活動開始一番に作った横浜療育医療センターへのプレゼントが、青年会、事務所、福祉委員会、横浜療育園グループの協力で素敵なプレゼントになりました。

マリア会 H. I.

【編集後記】待降節を迎えました。いつにも増してこの時期が待たれたのは、たぶん、新しいミサ式次第を使っただけのごミサがスタートするからではないでしょうか。DVD で少しは学ぶことができたものの、ミサに与る側としては、不慣れなせいで司祭との言葉のやりとりがスムーズにできるのかという不安もあります。でも、きっと、神様は私たちを見守っていてくださることでしょう。久しぶりに、二俣川教会で黙想会が行われることも、大変ありがたいですね。主のご降誕を、心をきれいにしてお待ちしたいと思います。（N. F. 記）